

祝 辞

春の光に包まれ陽光桜の花が咲き始めようとするとき、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学をご卒業される皆さん、おめでとうございます。

これまで皆さんを見守ってこられたご家族をはじめ教職員の皆様、心よりお慶び申し上げます。松山東雲学園同窓会を代表いたしましてお祝い申し上げます。

松山東雲学園は一八八六年、四国で最初の女学校としてキリスト教教育に基づいた女子教育を行う、画期的な学校として創立されました。建学の精神は、「信仰・希望・愛」であらわされ、創立一三四年を迎えた今日もその精神が受け継がれていることに感謝申し上げます。男女共同参画が課題となっている現在においても、重要な役割をもっていると思います。

特色ある本学で学ばれた皆さんは、授業やチャペル・アワーなどの学生生活を通して、それぞれ専門分野の知識とともに、どのように生きるかを問い、何が大切なのかを学ばれたことと思います。その学びは、これからの人生をデザインするとき、きつと活かされると思います。誇りをもって歩み出して下さい。

特に二〇二〇年は社会全体が大きな不安の中に置かれました。小・中・高等学校が臨時休校となったり、会いたい人になかなか会えなかつたりする制限の多い状況でした。そのような中にあっても、大学では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、遠隔での授業を実施し、十分な安全対策を講じたうえで、段階的に対面での授業へと移行されているという取り組みをお聞きしました。

こうした状況を通して人と人とが顔を合わせ、触れ合い、そして、対話が何よりも大切であることに気づかされました。それと同時に私たちは、IT機器を用いながら、どのように人間関係を構築していけばいいのか、どのような社会を創っていけばいいのかを考えることも必要です。

さらに、これからは、自然災害や気候変動、少子高齢化、エネルギー問題などの多くの課題に向き合い、自ら生きる環境を自分で選択し、かかわっていく覚悟が求められるのではないのでしょうか。皆さんには、自由さの中から生まれた想像力、好奇心をもって、それらの課題をこれからも探究していただこう、期待いたします。

また、今日は、たくさんの思い出と、共に過ごした友達や手を差し伸べてくださった先生方とお別れし、新しい場所へと出発する日です。皆さんお一人おひとりが今、思っていることを感じていることを大切にして、一日一日、健康に気をつけて過ごしていただきたいと思えます。

松山東雲学園同窓会は、卒業された皆さんを同窓会会員としてお迎えいたします。年に一回、会報誌「雪びら」を発行し郵送します。お手元に届きますよう住所に変更がありましたら、お知らせください。今年度は中止となりましたが、次年度には「お山のバザー」や「クリスマスの集い」を実施したり、「大学祭」や「ホームカミングデー」に参加したりできるようにと願っています。「手芸を楽しむ会」「讚美歌の集い」など、会員の親睦と母校の発展に寄与することを目的として、共に取り組んでいきましょう。同窓会から卒業記念品を贈らせていただきました。

最後に、卒業生の皆様お一人おひとりに神さまの恵みが豊かにありますようお願い申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

二〇二二年三月二二日

松山東雲学園同窓会

会長 菅田栄子